

令和3年度  
グループホームふれあい愛知  
外部評価結果

調査機関名 株式会社 沖縄タイム・エージェント

所在地 沖縄県那覇市上之屋 1-18-15 アイテラス 2階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4770500710	
法人名	株式会社 ふれあい介護センター	
事業所名	グループホームふれあい愛知	
所在地	沖縄県宜野湾市愛知3-17-20	
自己評価作成日	令和4年3月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JiyosyoCd=4770500710-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=4770500710-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント	
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階	
訪問調査日	令和4年3月15日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いつも笑顔で楽しい雰囲気、入居者様同士での関わりの時間もあります。一人一人の個性を大切に、職員も一緒になって協力し合える環境で共同生活を送っています。好きな事や出来る事探し、ご本人様のペースでゆっくりした時間「ゆっくり関わられる事で待つ姿勢」も大切にしています。「みんな家族、頼り頼られ 協力し合い、沢山の笑顔を応援します」の理念をモットーに、家族様や地域の方、関わる皆様と一緒に支えていけるグループホームを目指します！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、有料老人ホーム、デイサービス、グループホームからなる複合施設となっていて、職員自らが事業所理念の再検討を行い、新たに「地域との関わりを密にすること」を目標に追加して運営が行われている。  
コロナ感染リスクの初期段階からLINEやLINE電話の運用を行い、利用者と家族の関係が希薄にならないよう対策を講じており、当初LINE電話等の扱いに不慣れな利用者もいたが、操作に関する支援を手厚くしたことで運用ができています。  
全利用者のケアプランに関するカンファレンスやモニタリングを月例のカンファ会議で行い、きめ細かい対応が実践されている。  
月毎のモニタリング結果は家族へも説明されていて、家族からの意見や要望を迅速にケアプランへ反映する仕組みができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり、深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度のステップを踏まえ、理念の再確認をミーティングで行い、職員間で1つ追加する目標が出来た。ケアや業務が目標に向かって出来るような意識を持って動ける環境を作っている。	事業所の会議体制は、月1回全員参加のカンファレンス会議を実施しており、主にケアプランについて話し合いながら、同時に運営に関する課題や問題点について討議されている。また年2回の人事考課が行われ職員のスキルアップを図っており、これらの機会を通じて事業所の理念も確認が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	継続した自治会への加入、コロナ対策を行いながら地域がどう動いているのかを教えてもらいながら自事業所がどう関わっていけるかを話が出来た。	コロナ禍の現状で地域との関係は希薄となっているが、コロナ感染リスクが解消されたら地元自治会との関係を再開する予定であり、管理者は自治会会合に顔を出しながら、利用者が参加できるような行事等について情報を収集している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	予定していた認知症カフェを開催する事が出来ず、コロナ状況を見ながらの消極的な動きとなった。 少人数で動けるご近所のゴミ拾いを行ってみた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月毎の運営推進会議、今年度は全ての回を報告書という形で動きました。来年度は感染対策を行いながら顔が見れる意見交流の場を設けサービス向上に活かす。	コロナ禍の折り、書面開催となっているが、管理者は月2回行っている開催議事録を運営推進会議委員に持参のうえ、運営に関する意見をいただき、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	3か月に1回、リモートを利用したグループホーム連絡会に参加している。コロナ禍の中での看取りの対応は？面会はこういった状況ですか？との意見交換が出来、情報やアドバイスがもらえる環境があった。	市内グループホーム(8事業所)で構成するグループホーム連絡会を、市役所担当課も参加のうえリモートで3か月に1回開催し、行政からの連絡や他のグループホームとの意見交換が行われていて、運営に反映する取り組みが行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスでモニタリングを行う際、身体拘束に値しないかを確認し合える場がある。特に新しく職員が入った時等は、グループホームの特徴を踏まえた身体拘束のないケアを勉強してもらっている。	コロナ禍のなか、身体拘束適正化委員会の実施は事業所外部委員の参加は難しい状況であるが、3か月に1回開催されている。身体拘束防止に関する指針、マニュアルが整備されており、研修会は月例カンファ会議を利用して年2回以上行われている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自身の気付きや他者からの気付きを虐待の学びとし、このケアは大丈夫だろうか？と振り返りの意見交換が出来る職場環境があります。	管理者は、職員に虐待に関する問題行動や発言のあった場合は都度注意を行い、必要な情報は月例カンファ会議の際に職員全員に情報を共有できるように努めていて、虐待防止に関する研修会も年1回実施されている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人に地域包括支援センターがあり、権利擁護や制度の相談やアドバイスがもらえる環境が身近にあるのは強みです。学んだ権利擁護を日頃のケアで活かす事を職員間で意識し実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を一緒に読み合わせし、説明と同意を得てからの入居といった流れになっています。加算の改定、料金見直しの場合、覚書にてサインを頂き納得を得ています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様とご家族様、医療連携を含めての面会制限が続いていて、法人でも統一した内容(電話やLINE、LINE電話等)で情報発信や意見交換が出来ている。	事業所は、コロナ感染リスクの初期段階からLINEやLINE電話の運用を行い、利用者と家族の関係が希薄にならないよう対策を講じており、事業所と家族間の関係構築に努めている。当初LINE電話等の扱いに不慣れな利用者もいたが、操作に関する支援を手厚くしたことで運用ができています。	事業所の運営にとって、家族の意見や要望は最重要なことであり、LINE電話等の早めの取り組みは大変評価できるが、更に関係を深めるため年1回程度家族に対して満足度アンケートを行うなど、更にもう一步深めた関係作りを期待したい。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	前年度の流れが良かった法人の人事考課を今年度も活かし、継続して行っている。外部評価の自己評価(55項目)も継続して行っている事で、職員がグループホーム運営の在り方を学べている。	職員からの意見や要望の吸い上げ、事業所から職員への要望や課題の指摘については、年2回の人事考課の際に本人と管理者で行われていて、その内容は上司の所長や本部に繋がっている。職員の具体的な業務目標の設定に当たっては、本外部評価の項目に沿ってチェックが行われており、可視化できる仕組みができています。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を活用し、職員が事業所目標に対し自己目標を立てられるようになった。実施実現に向けて働く職員をしっかりと評価する声かけを忘れないようにしている。	職員個人の業務目標の設定は、外部評価項目を利用することで具体的な目標が立てやすく、管理者にとっても本人のスキルアップのための明確な評価ができる取り組みができています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「OJT研修」を活用しての新人職員の育成、不安なく働ける事、又既存職員も一緒についてケアを教える事で成長が見られる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会で交流が持て、自事業所が課題解決が出来なかった事などを相談・情報が頂ける事が出来た。県グループホーム連絡会もZOOM会議が行われており、同様に情報収集が出来た。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に直接お会いし、現在の困り事や不安を真摯に向き合い、望まれた生活スタイルに近づけるサービスを目指し、話し合いが出来る関係作りを心がけている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームの特徴を知って頂き、家族様の今までの介護支援を労い、今後は私達と一緒に支えていける事で安心感を得てもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	希望やニーズを聴く事で、入居者様の現状に合わせ、グループホームで出来る事や難しい事をお伝えしている。法人全体のパンフレットをお渡しし、法人全体の事業を紹介する事で選択が出来る事も強みとしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や趣味、フリータイムをご自身のペースで過ごして頂いている。必要な支援をモニタリング等で見極め、待つ姿勢や選べる環境での生活スタイルを過ごせている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限の中、LINE電話で顔を見ながらの電話が上手く活用出来ている。日頃の光景や行事等の写真や動画をその都度プレゼント配信も行っている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	携帯電話を持っておられる方は、自由に家族や知人と連絡を取り合い、必要に応じてはLINE電話での顔を見れたお喋りを楽しまれている。お手伝いが必要な方にも、事業所のLINE電話を活用している。	事業所は、コロナ感染リスクの早い時期からLINEやLINE電話の運用を行い、利用者と馴染みのある人の関係が遮断しないように努めている。また、LINE等操作が不得手な人についてもサポートをしながら、関係継続に努めている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースで一緒に過ごす時間があり(毎日の体操・食事・余暇活動等)就寝の時間になると、誘い合いながら入室されていく光景もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域密着型の施設なので、ご近所で顔を合わせる事があり、ご挨拶が出来たり、現況を話出来たりと「いつでも相談が出来る窓口」としてお話をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様に直接お会いし、現在の困り事や不安を真摯に向き合い、望まれた生活スタイルに近づけるサービスを目指した関係作りを心がけている。	管理者(ケアマネ)は、利用者や家族の意向や要望について、入居前のヒアリングシートで情報を収集整理したうえ、職員に情報提供を行いながら、月例カンファ会議の際に確認を行いケアプランに反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様や家族様のアセスメントから、毎月のモニタリングで評価出来ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録から、認知症の症状の変化や気づきに繋がっている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標を3ヶ月としているも、毎月入居者様のモニタリングを行っている。職員のモニタリングを家族様にお伝え出来る事で、ケアプランに反映出来ている。	全利用者のケアプランに関するカンファレンスやモニタリングは、月例のカンファ会議で毎月行われていて、きめ細かい対応が実践されている。月毎のモニタリング結果は家族へも説明が行われており、意見や要望をケアプランに反映する仕組みができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録が人事評価の事業所目標とし、いつでも開示出来る家族様や他の情報提供である事を意識したものにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	継続した入居者様の出来る事が出来ている。3階のコップ洗い等が今の状況で出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染対策を行い、法人で徹底した対策を元に行事を行いブログ等で発信している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	情報提供書を居室担当者が作成し、リーダーが最終確認。ご家族様にも安心して受診をお願い出来る用に、残薬確認も行っている。	入所前からのかかりつけ医を継続している利用者は6名で、訪問診療に切替えた利用者は3名である。訪問診療は、利用者個々に合わせた訪問診療を活用している。かかりつけ医を継続している利用者の受診は家族が同行している。情報提供の文書は担当で作成し、病状変化のある利用者については、管理者も同行し、支援を行っている。	



自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と違う様子、気になる事は毎週火曜日の訪問看護に相談アドバイスがもらえている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供書を提出、退院カンファレンス参加、グループホームへ戻った際のリハビリアドバイスをもらう事が出来ている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化指針の説明、状態変化時の緊急時対応の連絡体制の在り方を行っている。初回では決められない事もあるので、定期的確認をしながら、迷いがなく安心した入居生活に繋がっている。	開所から4年目で、3件の見取りを実施した。契約時・状態変化時に利用者・家族への説明を実施し同意を得ている。医療職との連携を基本に情報共有を行い、職員に対しては、勉強会を実施することにより、不安軽減を図っている。見取り後のブリーフケア、ミーティングを実施し、職員のねぎらい、振り返りを行っている。	
34	(15)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	前年度からのコロナ禍で、事業所で出来る研修や勉強会、実際の救急対応の振り返りを行っている。	急変時の対応については、ディサービス在住の看護師に勉強会の講師を依頼し、実施している。実際の急変時には、看護師の応援を得て、救急搬送を行った。又、動画の視聴も活用し、職員個々の実践力を高める支援を行っている。	
35	(16)	○災害や感染対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。又、感染症の予防やまん延防止の為に委員会の開催や指針を整備し、研修及び訓練を定期的実施している。	災害時のグループホームとしての対策に加え、複合施設としての対策も必要と感じ4事業所で連携した避難訓練を行うよう努めている。	前回ステップに上がっていた、夜間想定訓練については、3月に自主訓練として実施した。消防署からの指導により、避難先をバルコニーに設定し訓練を実施した。6月には、市と福祉避難所の締結を行った。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前の呼び方や言葉使いに敬う気持ちを持ち、認知症の個々の症状に合わせてお付き合いが出来る事を常々職員間で話し合いが出来ている。	利用者の情報交換を行う際、部屋名で確認することでプライバシーに配慮をしている。部屋名は沖縄の果物名をあてはめ、利用者になじみのある名称を用いている。日常のケアについては、職員間で話し合いを重ね、適切な対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の声に、お断りする事もありながら、まずはやってみて考える事を毎月のモニタリングとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	同上に続き、一緒に過ごせる時間を参加又は見学としての時間を大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身での髪の毛のセットや、口紅を塗る等のメイク、定期的なカットや毛染めもしています。		
40	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予定していた献立を変更してのホットプレートランチや、頂き物でのお食事、たまにはカップラーメンも食べたりと、在宅時代を楽しんでいます。	食事の支援については、昼食についてはディサービスの配食を利用している。朝・夕の2食については、献立作成・調理を職員が実施している。いただきものの食材や、利用者の好みを反映したメニューを取り入れ、時には、在宅の際に食べていたカップラーメン等、食事を楽しむ支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた食事提供、好きな飲み物やおやつ、必要に応じてエンシュアゼリーも常備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で出来る方は見守り、状態に応じて訪問歯科も紹介されています。		
43	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗があっても自尊心に配慮した声かけや無理がないフォロー、必要な方には案内しています。出来る方には日中は布パンツです。	日中・夜間とおむつを常時使用している利用者は2名で、その他の利用者は可能な範囲内で布パンツの利用を行っている。業務記録に排泄記入欄を設け、自立支援に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤は主治医や看護、介護側で検討しています。食材や水分などの出来る事をアドバイス頂いています。		
45	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自身で好きな時間やタイミングが選べる声掛け、お洋服の選択まで行えています。体調に合わせてストレッチャー浴も可能です。	入浴については、毎日入浴を行う利用者、1日おきのストレッチャー浴を行う利用者と、それぞれのニーズに応じた支援を実施している。入浴後にアロママッサージを希望する利用者に対応している。誕生日プレゼントに好きなシャンプー・リンスセットを選ぶ等、利用者個々が入浴を楽しむ支援を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様に合わせ、必要に応じた休息時間を取るようになっています。休息場所も自身の居室、フロアーベッドや畳間等選べる環境があります。		
47	(21)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携した薬局が出来た事で、服薬の事故報告が無くなりました。継続したWチェックで現場の意識も保ちながら提供していきます。	事業所用携帯電話に服薬時間のアラームを設定し、投薬時間の管理を行っている。薬局への業務委託により、誤薬の改善と、業務改善につながっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割、個々の出来る事を継続できている。認知症の症状で難しくなっている事もありながら、職員が横にフォローが入る事で出来る事が見える。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染対策にて、外出制限がある中ではあります。散歩コースを選び、人数制限や環境整備を行いながら出来る事を選んでいきます。	広い敷地内を活用し、散歩支援を行っている。コロナ禍以前は、初詣やお花見等イベント毎に、外出支援を行っていた。コロナ禍での外出制限中は、事業所内に神社を設けお参りしたり、豆まきや恵方巻を作って食べるなど、楽しめるイベントを企画実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とご本人様の要望が合えば、事業所で出納帳を準備させて頂き管理しています。要望に応じて毎週販売のヤクルトさん、好きなパンを購入しています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持の方は自由に連絡されていたり、必要に応じて事業所のLINE電話も利用して頂いています。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は換気と適度な温度設定を繰り返し、窓から光が入る明るいスペースになっている。対面キッチンにカウンターがついているので、入居者様とお喋りをしながら調理も出来る。	感染対策として、換気のため日中は、窓を開けている。リビングの横にカウンターキッチンを設けている。職員と利用者が食事を楽しむ環境を工夫している。リビングのフロア内には、退所した利用者家族から譲られたベッドを設置している。座位が困難な際に利用することで、団らんに参加できる工夫を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等、畳間でくつろげる環境があります。交流室の空間も明るい環境で、広々とした空間です。春夏秋冬の壁面も飾っています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のアレンジは本人様やご家族様にお任せしています。在宅時からの慣れ親しんだ物をお使いになられています。	各居室には、カーテン・ベッド・エアコン・タンスを設置している。設置しているタンスを利用者の持参したものに変更することで、より利用者にあった収納にしたり、壁にカレンダー・時計・写真等、個々の利用者の好みなどに合わせた居心地よく過ごせる環境整備に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ案内板や日時がわかるようなカレンダーや時計を各部屋や共有スペースに配置している。		

(別紙4(2))

### 目標達成計画

事業所名:グループホームふれあい愛知

作成日: 令和 4年4月19日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	事業所の運営にとって、家族様との更なる関係を深めるための満足度アンケート実施等を活用して、もう一步を期待したい。	満足度アンケートを実施する事で、事業所の良い点と課題点が見え、職員も一緒にサービス向上の目標が立てられる。	アンケートを実施し、要望や相談等の声をミーティング等の場でしっかり共有して現場の成長に活かす。	10ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。